



能宗 正洋
誠友会
(60分)

休耕地、耕作放棄地の活用は

問 休耕地活用の取り組みは。

答 国の農地中間管理事業を利用して休耕地と農業者をマッチングした実績は、令和元年度8件である。農業への参入意向がある企業の利活用促進も重要と考えており、現在、芦田町で企業1社とのマッチングを進めている。



小畠 崇弘
誠友会
(45分)

山手橋西詰交差点の渋滞緩和を

問 交差点の慢性的な渋滞は市民生活や社会経済活動に大きな影響を与えている。当面の対策と幹線道路網整備の効果は。

答 この交差点では国道の迂回路になっている2つの幹線市道が交差しており、朝夕を中心に渋滞している。当面の対策として年内

砂留遺産の活用は

問 芦田町に現存する砂留の今後の活用方法は。

答 平成29年度に策定した「歴史文化基本構想」では、別所砂留、大谷砂留を本市の特色の一つに位置付けており、全国的に注目されるべき歴史文化資源と考えている。砂留群は北部エリアの周遊観光につながる貴重な地域資源である。今後は、地域とも連携し、散策しながら見て回れる砂留群の魅力をさらに磨き上げていく。

に矢印信号機を設置する。

また、福山道路、福山沼隈道路、福山西環状線の整備により、交差点の交通が減少すると考える。

公共交通は

問 路線バス郷分線は、3月から13時台と15時台の1日2往復のみに減便され、利用しにくい状況にあるが、考えは。

答 10月からのダイヤ改正に向け、午前と午後それぞれ1往復とするなど、より利用しやすい運行となるよう事業者と協議している。



荒玉 賢佑
誠友会
(40分)

実証実験の成果は

問 実証実験の社会実装は。

答 本市が関わってきた実証実験ではオンデマンドモビリティやキャッシュレスなどが実用化につながっているが、先進都市と同様多くは社会実装に至っていない。重要なことは、実証実験を積極的に受け入れ、企業がチャレンジ



岡崎 正淳
誠友会
(50分)

福山駅前再生事業の他地域への波及に向けて

問 駅前再生事業は、中心市街地の活性化のみでなく、リノベーションや公園の利活用など各地域の新たな活性化にとって重要である。今後は具体的な取り組みにつなげる必要があるが、関連する取り組みは。

できる都市としての信頼性や魅力が高まることにある。

鞆町の安全対策は

問 ①山側トンネル工事の安全対策は。

②防災計画策定の進捗は。

答 ①住民に不安を与えないよう、安全性の確保を県に求め、丁寧な説明を行うよう調整する。
②地域住民の参加によるワークショップの実施を検討しており、今年度末を目前に鞆町伝統的建造物群保存地区防災計画を策定する。

答 福山駅前アクション会議に市域全域からも参加していただき駅前と周辺地域の人や資源をつなげる取り組みを始める。例えば、周辺地域の観光施策や農水産物のブランド化の取り組み等と駅周辺のリノベーションまちづくりとの連携により、経済の循環をめざす。また、新たに各地域の地域戦略策定に着手し、戦略的な地域づくりと駅周辺のにぎわい再生との相乗効果により、市域全体の一体的発展をめざす。